

# 職員研修計画

研修主題	道徳：自他のよさを認め合い、ともに高め合う心豊かな児童生徒の育成 教科：自ら学び、深く考え、ともに高め合うことができる児童生徒の育成 —アクティブラーニングを取り入れた実践を通して—
------	---

## 1 主題設定の理由

### (1) 児童生徒の実態と過去の研究から

本校は英国にある日本人学校という特殊性から、転出入児童生徒が多く、それぞれの出身地も多岐に渡っており、育ってきた文化や環境が異なる。そのため、個々の児童生徒が多様なものの見方、考え方をすることができ、高い創造力、柔軟な思考力を有している。しかし、授業等での友達との交流の様子を見ると、相手のよさを認めたり、相手とともに高め合ったりすることが十分にできているとは言えない。そこで、本年度はそうした児童生徒の実態を鑑みて、道徳では「自他のよさを認め合い、ともに高め合う心豊かな児童生徒の育成」、教科では「自ら学び、深く考え、ともに高め合うことができる児童生徒の育成」という主題を設定した。

また、本校では、平成27年度、28年度に研究主題「進んで考え、学び合う児童生徒の育成—ICTを活用した協働学習を通して—」を設定して研究に取り組んだ。各授業で、ICTの特徴を生かした小集団による言語活動を伴った協働学習を行うことを通して、自分の考えを具体化して友達に伝える活動、友達の考えを聞いて、新たな見方や考え方を知る活動、お互いのよさを認め合うことができる活動などをどのように設定するか考え、実践し、その結果を検証することで成果を客観的に明らかにした。「自他のよさを認め合い、ともに高め合う心豊かな児童生徒の育成」「自ら学び、深く考え、ともに高め合うことができる児童生徒の育成」を目指す本研修は、これまでの研究を継続、発展させる意味でも意義深いと考える。

平成29年度は、本研修主題のもと、道徳と各教科の研修に取り組んだ。多様な言語活動を通して、児童生徒が意欲的に学び、考え、そして自分の考えを積極的に表現することができた。

平成30年度は、互いの考えを伝え合う中で、新たな見方や考え方を知ったり、お互いのよさを認め合ったり、ともに高め合うことのできる児童生徒の育成を目指し、継続して本研修に取り組んできた。さらに、英国の教育現場で取り組まれているLGBTへの理解を図る教育を本校でも取り組み始めた。

### (2) 今日的な教育課題から

現代の日本が目指す人間像を中央教育審議会答申（第2章 2030年の社会と子供たちの未来）では以下のように示している。

「主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付けることが重要である。」（平成28年12月21日）

本校の目指す児童生徒像は、現代の日本が目指す人間像と価値観を共有するものであり、本校の取組みは、今後のわが国の教育の方向性を見据えたものであると言える。

### (3) 目指す児童生徒像

#### ① 自他のよさを認め合い、ともに高め合う心豊かな児童生徒とは

児童生徒がお互いの考えを聞き、自己の考えを深めたり、考えを相手に伝えたりする。また、活発な意見交流を行うことで、他者を尊重し自己存在感を高めることができる児童生徒のことである。

#### ② 自ら学び、深く考え、ともに高め合うことができる児童生徒とは

児童生徒自らが意欲的に課題に取り組み、自分の考えを具体化して友達に分かりやすく伝え、

友達の考えを聞き、新たな見方や考え方を知ることによって、お互いに考えを深め、よりよい答えを導き出そうとすることができる児童生徒のことである。

## 2 研修の目標

小学部、中学部における道徳・各教科の授業において、アクティブラーニングを積極的に取り入れ目指す児童生徒を育成する。本校では、アクティブラーニングを以下のように定義する。

「他者との協働を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学び」

アクティブラーニングは、日常的な学習場面の様々なところで、多様な方法で具現化されるものである。そのために、物事を考える際に教えておくべき知識や「(主体的な) 学び方」は、指導する。

## 3 研修の仮説

子ども主体の学習活動の中で、目的意識を高め、アクティブラーニングの場の設定と、その運用を工夫することで子どもたちは自分の考えだけでなく、よりよい考え方を求め、ともに高め合う姿を見せるであろう。

## 4 研修の具体的構想

### (1) 研修検証のための具体的方途

仮説を具現化するために次の2つの手立てを講じ研修に取り組む。

#### ① 一人ひとりが課題を主体的に「自分のこと」として学ぶ工夫

児童生徒が主体的に自ら学ぶためには、課題への理解を促し、関心・意欲を高め、思考を具体化させることなどの手立てがある。これらの手立てとアクティブラーニングを効果的に組み合わせ目指す児童生徒像の育成を図る。

#### ② 深く考え、ともに高め合うためのアクティブラーニングを取り入れた実践

ある課題に対して、その解決法や答えを複数人または、学級全体で話し合う他者との協働を通じて、教え合ったりお互いの考えを吟味し合ったりすることで、友達の考え方のよさに目を向けともに高め合うことが期待できる。

### (2) 検証計画

#### ① 全体研修授業

全体研修授業は道徳の授業を1学期に小学部、2学期に中学部で行い、年間2本とする。本研修が目指す「自他のよさを認め合い、ともに高め合う心豊かな児童生徒」が育ったかどうかの検証として、次の2つの児童生徒の姿を以下のような内容で分析していく。授業事後研修会は、ワークショップ形式で行う。

##### ○ 自他のよさを認め合う姿

[検証の視点] 多様な価値観を認めているか。

[検証の方法] 1単位時間の活動の様子。本時のワークシート・発言内容の分析など。

##### ○ とともに高め合う姿

[検証の視点] 新たな見方や考え方を知ったり、お互いのよさを認め合ったりできているか。

[検証の方法] 本時終末に書く、ふり返りやワークシート・発言内容の分析。

#### ② 研修授業

研修授業は、1学期末から2学期中に小学部は国語・算数・道徳の授業を行い、中学部は各教科の授業を行う。本研修が目指す「自ら学び、深く考え、ともに高め合うことができる児童生徒」が育ったかどうかの検証として、2つの児童生徒の姿を次のような内容で分析していく。

○ 自ら学び、深く考える姿

[検証の視点]意欲的に課題に取り組み、自分の考えを具現化しているか。

[検証の方法] 1 単位時間の活動の様子。本時のワークシート・発言内容の分析など。

○ とともに高め合う姿

[検証の視点]新たな見方や考え方を知ったり、お互いのよさを認め合ったりできているか。

[検証の方法]本時終末に書く、ふり返りやワークシート・発言内容の分析。

③ 授業参観シートの活用

授業参観シートを活用することで、授業を参観するポイントを共有するとともに、授業を客観的に分析することができ、教員全体の授業改善の材料となると考える。

授業参観シート

教科【           】       月   日（   ）   校時   学部   年生   授業者  
【           】

授業における基本事項～授業改善における授業参観の視点～

確認   ○・△

導 入

資料提示の工夫

児童生徒の興味・関心を引き出す分かりやすい「めあて」の提示

本時の「学習の流れ」の提示

工夫されていた点および質問

展 開

児童生徒の思考を深める発問の工夫

めあてを解決するための資料の活用

学習の「めあて」を深めさせるための言語活動の設定

《時間の確保、ノートやワークシートの活用、活動形態（個人・グループ・全体）の工夫》

工夫されていた点および質問

ま と め

「めあて」と連動した「まとめ」

評価活動（振り返り）の実施（自己評価・相互評価）

工夫されていた点および質問

【自由コメント欄】